

燃える山と その昔呼ばれていた 樽前山

昨年の春、白老のポロト湖の散策の後に海岸にあるヨコスト湿原を歩いた。季節にはハマナスやキイチゴなどの花や実がなり、湿地帯には水鳥がやってくる貴重な場所だ。海に向かって歩き散策を終え振り返ると、白煙を上げる樽前山が向こうに見えた。

樽前山は支笏湖から眺めるのも良いけれど、白老や苫小牧から眺める樽前山の姿は、海から続く陸地がそのまませり上がって山になっているように見えて、その雄大さがとても印象に残る。今年の10月の頭には道央自動車道の樽前サービスエリアから久しぶりに樽前山を眺めた。相変わらず白い噴煙が上がり、目前に広がる命を感じる山の景色を堪能した。

どこから見てもすぐすぐわかる樽前山は、有史以前から火山活動が始まり、何度も噴火を繰り返し1909年の噴火によってあの特徴的な形の溶岩ドームが形成されたとある。その昔アイヌの人たちは「ウファイ・ヌプリ＝燃える山」と呼んでいたそうだ。

北海道はアイヌ語に漢字を当てた地名が多い。その語源の意味を辿ると、その土地の様子や状態がわかることが多い。樽前の由来は「タオロマイ＝川岸の高いところ・（そこに）ある・もの」という意味だそうだ。樽前川の上流で水源でもあり、そこにある山だから樽前山と名がついたのだという。道内各地、いろんな地名をひも解くのも面白いなと思う。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ?」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ?<くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。

